

タニシと蛇のけんか～酒井明 説話集 1 1 ※～

世の中にはまさかと思う様なことがよくあるものですが、皆さんタニシと蛇がけんかしたらどちらが勝つと思いますか。

ぼつぼつ暖かくなってタニシも泥の中からはい出してきます。

今の様に農薬なんかをかなり使う様になって、ドジョウやタニシ、メダカなんか以前と比べると少なくなってきましたが、それでも最近また、沖須賀の方から新田、錦あたりでもぼつぼつ増え始めた様子が見られます。

タニシやドジョウは食料その他大切なもので、メダカは色々な研究に使われてきました。なんだあんなものなどと言わずに保護したいものです。

さてそのタニシ、山合いの小さな田んぼでもたくさん住んでいました。

雨上がりのある日のこと、一匹の蛇が草の間をによろよろとやってきました。しばらくゆっくりと穴の中で寝ていたが、そろそろ腹が減ったので蛙でもご馳走になろうかと出てきたのです。しかし、あいにく蛙の姿は見当たりません。

タニシはたくさんいるのですが、あまりおいしそうに見えません。

蛇がタニシに言いました。

「お前さんたち、そんなもんばかり食べておいしいこともないだろう」

タニシは泥の中に溶けた色々な物を食べていたのです。

そこでタニシが言いました。

「お前さんは一度食べたら三日も四日も呑気に寝そべっているそうだが、わたちはこんなもんでも毎日食べて動くので体の中は肉一杯、元気一杯だ」

それを聞いた蛇は生意気なことを言うと思ったが、待てよ肉一杯とは聞

き捨てたらん。外づらは黒くて固そうだが何でもひとつ食べてみてやろう。
と一番大きなタニシに近づきました。

一息に飲み込もうと大きな口を開けた蛇の下顎を、不意打ちとは卑怯だぞ、とばかりにタニシは蓋を開いてかっちり挟みつけました。

一度閉まったタニシの蓋は蛇がどんなにもがいても外れません。とうとう蛇の方が参ってしまいました。

あのタニシがと思う様なことが、人の目に触れることの少ない場所でこんな格闘をすることもあるのです。

※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。

